

PMDA 医療安全情報

(独)医薬品医療機器総合機構



No.32 2012年 6月

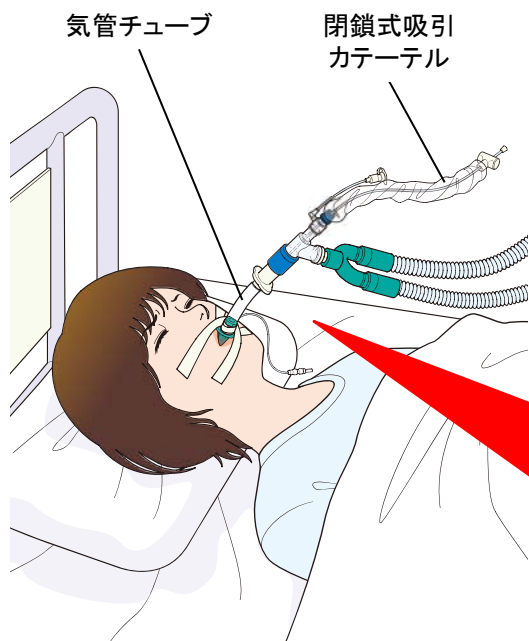
閉鎖式吸引カテーテルの 取扱い時の注意について

POINT 安全使用のために注意するポイント

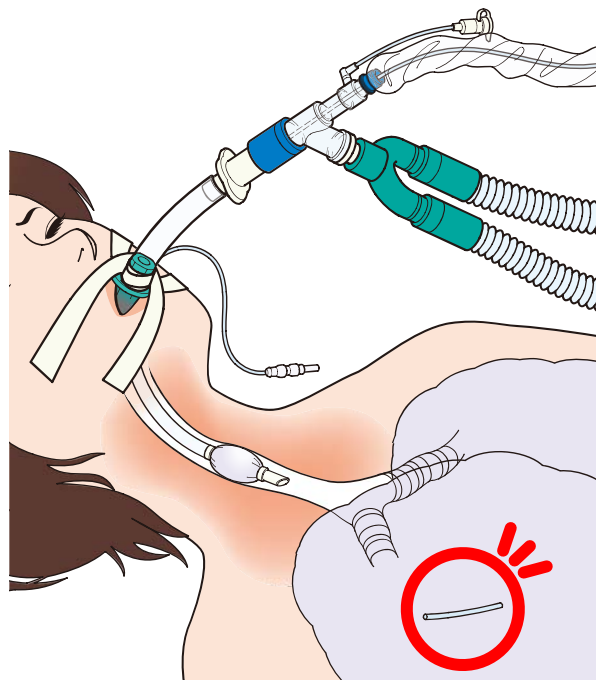
(事例) 胸部レントゲン写真で肺に異常陰影を認めたため、気管支鏡を行ったところ、気管支内に閉鎖式吸引カテーテルの先端を発見した。

1 気管チューブの長さ調節（切断）の際の注意点

- 気管チューブの長さを調節するためにチューブを切る際には、閉鎖式吸引カテーテルの先端位置に注意すること。



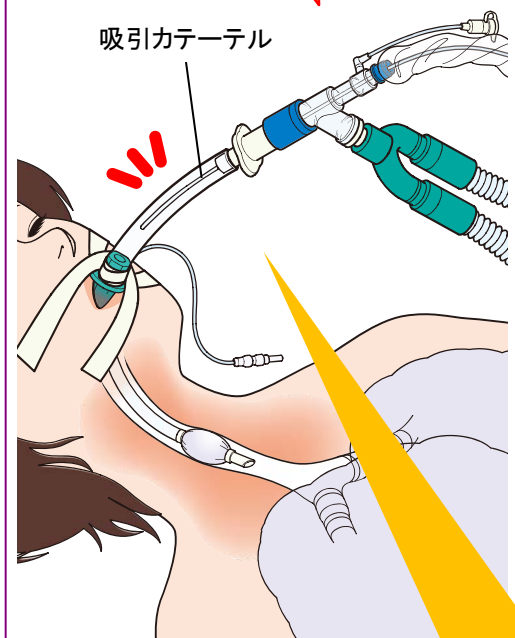
気管支閉塞のおそれ



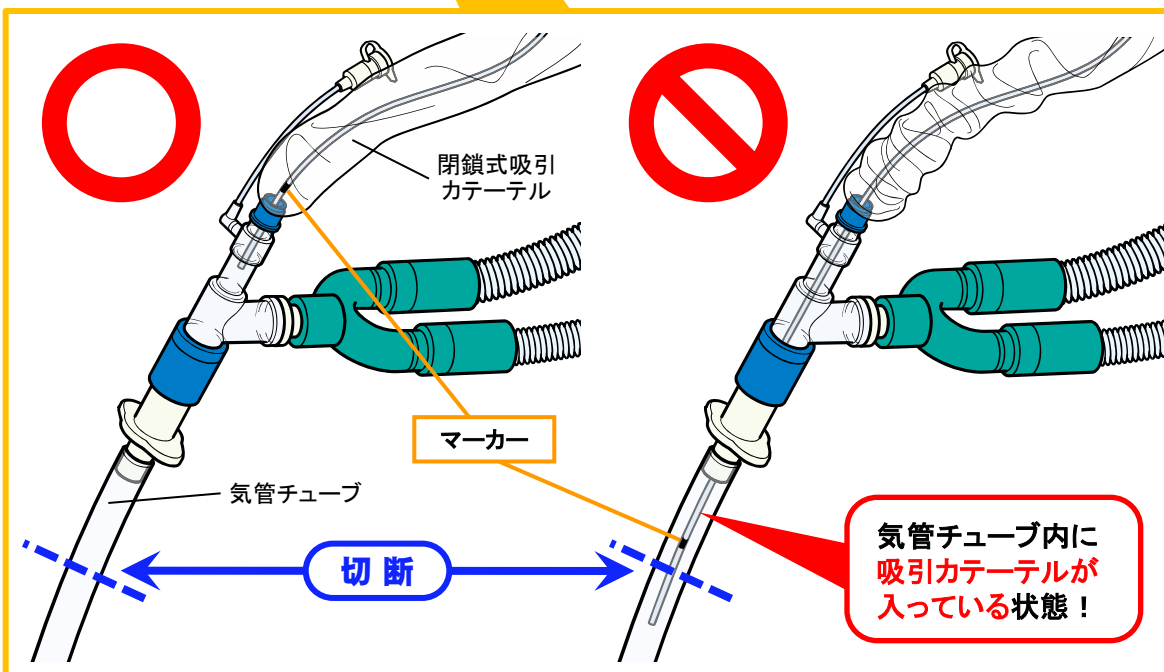
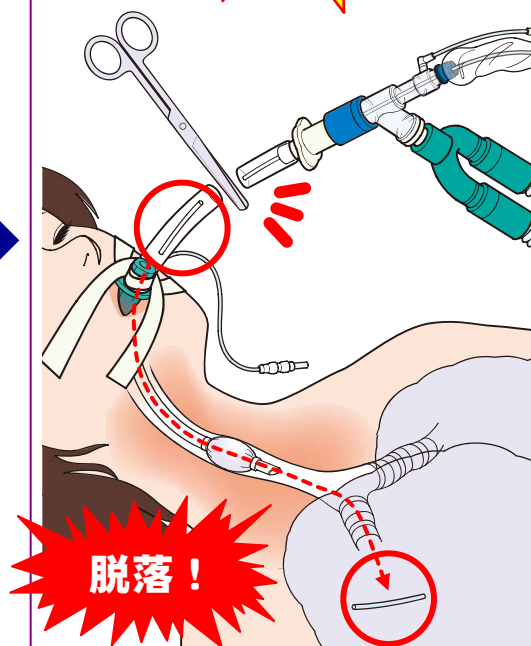
切断されたカテーテル先端が
気管支へ迷入

吸引カテーテルの切断・脱落のメカニズム

気管チューブ内に
吸引カテーテルがある！



気管チューブと共に
吸引カテーテルを切断！



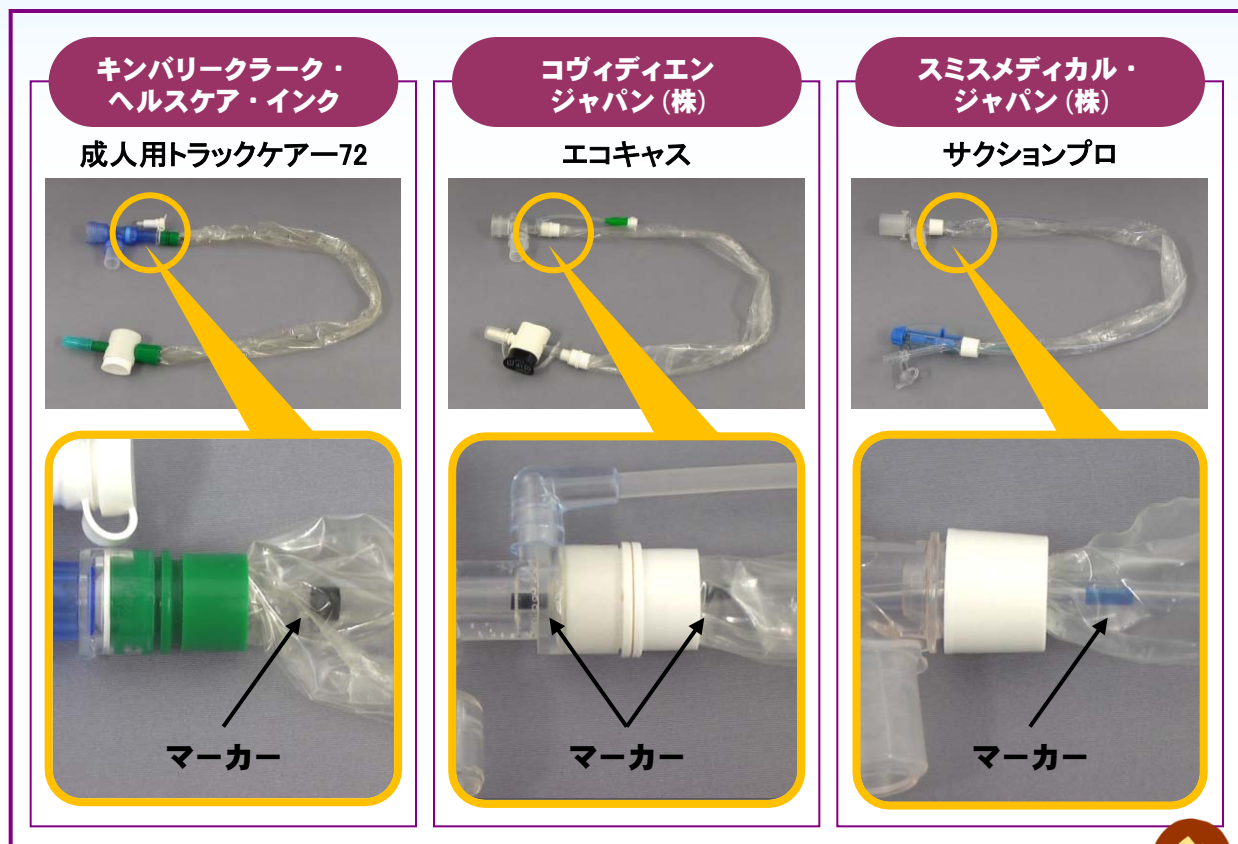
長さ調節のために気管チューブを切る場合には、閉鎖式吸引カテーテルの先端が気管チューブから引き戻されていることを確認しましょう。



2 使用方法に関するその他の注意点

- 吸引後は、必ず吸引カテーテルを気管チューブ内から引き戻すこと。

閉鎖式吸引カテーテルの一例



気管チューブ内に、吸引カテーテルを挿入したままにしておくと、
気道抵抗が高くなる原因になります。
気管吸引後は、**吸引カテーテル先端のマーカ位置を確認**しましょう。



本情報の留意点

- * このPMDA医療安全情報は、財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業報告書及び薬事法に基づく副作用・不具合報告において収集された事例の中などから、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が専門家の意見を参考に医薬品、医療機器の安全使用推進の観点から医療関係者により分かりやすい形で情報提供を行うものです。
- * この情報の作成に当たり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。
- * この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするものではなく、あくまで医療従事者に対し、医薬品、医療機器の安全使用の推進を支援する情報として作成したものです。